

無し、然れども碑文の XII 以下が Radloff 氏の考ふるが如く、皆此の可汗の事を記したるものとは認む可らず、若し然らんには、何故に碑題に見ゆる可汗の徽號と、茲に記さるゝもののが合致せざるや、氏が此の點に就きて何等記する所なきは、解する能はざる所なりとす、從て余輩は懷信可汗の時に此の碑が建設せられたるものとする氏の説には賛する能はず。

二、の Schlegel 氏の説は綿密に碑・史兩者の記事と可汗の稱號とを比較したる結果、碑題に見ゆる[愛]登里囉汨沒蜜施合毗伽可汗なるものは、新唐書に見ゆる曷薩特勤昭禮可汗の徽號と全く合致するものなれば、此の可汗の時に建てられたるものなりとし、而して此の可汗の徽號は碑文の中には見えざれど、必ず XII—XX 間の殘闕せる部分中に存したるものならざる可らず、XI の登里囉羽[錄]沒蜜施合汨咄祿胡祿毗伽可汗より此の昭禮可汗に至る迄の間に、尙合俱錄 (805—808) 合毗伽 (808—821) 句主錄毗伽 (821—825) なる三人の可汗あり、此等の可汗の名は思ふに XV XIV XVIII の缺けたる所に記されし、而して碑題に見ゆる昭禮可汗の即位のことは XIX 中 52—69 の邊に記されたるものなるべしと曰へり、此の如く碑題に見ゆるものと全く相合する徽號を有する可汗が、唐書回鶻傳に載せらるゝ以上は、氏の考は一見正鵠を得たるものなるが如きも、然も此の徽號は唯獨り昭禮可汗に限れるに非ず、之より二代前の可汗にして唐より冊して保義可汗としたるものも、亦同一の徽號を有したるものなり、茲に於てか

三、Chavannes 氏は「此の碑の確かなる建設年代は未だ明らかならず、碑文の I には之が Ai tāngriḍā kut bul-mis alp bilgā なる可汗の爲に建てられたるものなることを記せり、されば Schlegel 氏は之を以て 825—832 の同名の可汗(即ち昭禮可汗なり)に當てたるが、然も此の外にも之と同一徽號を有せる可汗ありて 808—821 治世せり(保義可汗を曰ふ也)余は之